

は し が き

これまで日本人が英語を勉強するというと英語を通して欧米のことを学ぶことが中心でした。しかし交通手段の発達や通信衛星の開発により、世界がますます狭くなり、外国人との接触が頻繁になった今日、私たちは国際語である英語を使って、日本をもっと外国に理解してもらおう努力をする必要に迫られています。私たちが学ぶ英語も、従来の「受信型」の英語から「発信型」の英語に切り替える時期にきています。

本書は、正しい英語の書き方を学びながらかつ真の日本の姿を外国に紹介できるようになるために編纂されたもので、政治・経済はもとより日本人の性格や年中行事など日本に関する15項目を取り上げてあります。各課の最初の頁ではまず[A]のWARM-UPの説明文を読んだ後、[B]の穴埋め問題に取り組みます（この問題はlistening comprehensionの問題として活用することもできます）。次にその項目に関してよく使われる単語（句）を覚え、3頁目の空欄補充問題を通してUSEFUL EXPRESSIONSを学びます。最後の頁ではTRANSLATION 1で、説明文の内容理解をチェックする設問に英語で答え、TRANSLATION 2で英作文の演習問題をやります。これだけ内容がvarietyに富んでいるので、各課を終える頃にはその課の事柄に関する知識はかなり豊かになるでしょう。

また本書には、ネイティブスピーカーの吹き込みによるCDが付けられています。WARM-UPの英文とVOCABULARYが収録されていますので、繰り返し聴きながら生きた表現と語彙を身につけることができます。

海外でよく聞かれる批判ですが、日本人は案外自分の国のことを知りません。また知っていても英語で説明するのには苦勞します。このテキストで勉強する皆さんが、これを機会にもっと自分の国の政治・経済・文化・習慣に興味を持ち、英語でそれらを表現できるようになっていただければ幸甚です。

最後に、本書の作成に当たっていろいろ提案して下さった金星堂の嶋田和成氏及び英文の校閲をして下さった同僚のMr. Roger Northridgeに心からお礼を申し上げます。

2000年10月 木塚晴夫

本書の作成に当たっては下記の文献を参考にさせていただきました。

木村尚三郎『日本のすべて』（新版）（東京・三省堂，2000）

木塚晴夫『季節の中の日本』（東京・マクミラン ランゲージハウス，1995）

講談社インターナショナル『英語で話す [日本] Q&A』（東京・講談社インターナショナル，2000）

学研『日本タテヨコ』（東京・学研，1989）

佐々木瑞江『日本事情』（東京・北星堂，1987）

佐藤猛郎『英語で紹介する日本』（東京・創元社，1993）

新日本製鐵能力開発部『日本—その姿と心』（第2版）（東京・学生社，1985）

杉浦洋一，John K. Gillespie『日本文化を英語で紹介する事典』（第2版）（東京・ナツメ社，1995）

東芝人材開発部『異文化テキスト』（東京・グロービュー社，1986）

日鉄ヒューマンデベロップメント『日本を語る』（東京・アルク，1988）